

たたいぜき      じゅうにか      ごうようすい  
**湛井堰と十二箇郷用水**

たたいぜき      そうじゃしいじりの      たかはしがわ      そうじゃし  
**湛井堰は、総社市井尻野の高梁川にあり、総社市、**  
くらしきし      おかやまし      はたけ      はこ  
**倉敷市、岡山市などの田んぼや畑に水を運ぶため**  
の大切な水の取り入れ口です。



# たたいぜき けんせつ はくじゃ みちび いのち みず 湛井堰の建設（白蛇が導く命の水）

これが、「湛井堰」です。



そうじやししいじりの たかはしがわ よこぎ つく  
総社市井尻野にあり、高梁川を横切って造られています。

(注) せき さいしょ つく へいあんじだい  
この堰が最初に造られたのは、平安時代の  
はじめ頃だといわれています。

(注) 堰(せき)

川から水を取り入れるために、川の流  
れをせきとめるしきりのことをいいます。

ころ せのおごう げんざい おかやましせのお  
その頃、妹尾郷（現在の岡山市妹尾）に  
せのおかねやす ぶし かれ  
妹尾兼康と言う強い武士がいました。彼は、  
せのおごう りようしゅ のうぎょう さか  
妹尾郷の領主として、農業を盛んに行ってい  
ました。しかし、雨の少ない年には、ほとん  
どお米や野菜がとれませんでした。



ちくぞう きねんひ  
築造800年記念碑

かねやす たかはしがわ せき つく たかはしがわ  
そこで、兼康は、高梁川に堰を造って、高梁川から水をひくこと  
にしましたが、どこにせき つく のが一番良いか決まらなくて、大変困  
っていました。

たかはしがわ かねやす いっぴき はくじゃ  
そんなある日、高梁川を見つめていた兼康の目に、一匹の白蛇が  
するすると流れの速い川を横切り、向こう岸にわたるのが映りまし  
た。かみさま つ かん かねやす せき つく  
神様のお告げだと感じた兼康は、さっそくそのあたりに堰を造  
ることにしました。そうして出来たのが、今の所にある「湛井堰」  
です。むかし せき げんざい しょうわ つく  
昔は、木や石で出来た堰でしたが、現在は、昭和40年に造  
られたコンクリートの堰となっています。

じゅうにかごう ゆらい  
**「十二箇郷用水」の由来**



上の絵のように、この水路の水を使っている所の地名が、

- ① 刑部郷、② 真壁郷、③ 八田部郷、④ 三輪郷、⑤ 三須郷、⑥ 服部郷、  
 ⑦ 庄内郷、⑧ 加茂郷、⑨ 庭瀬郷、⑩ 撫川郷、⑪ 庄郷、⑫ 妹尾郷、  
 の12に別れていたことから「十二箇郷用水」と呼ばれています。



むかし じゅうにかごう  
 昔の十二箇郷用水



げんざい じゅうにかごう  
 現在の十二箇郷用水

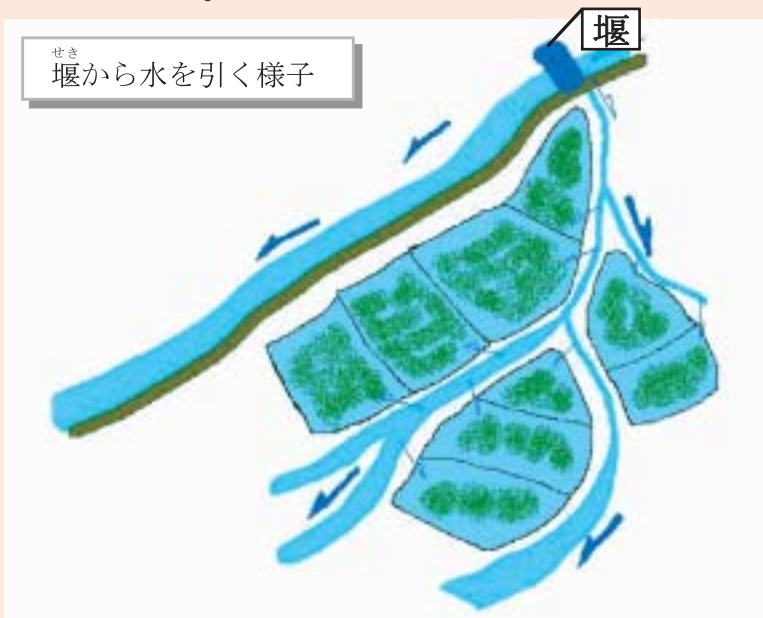
# 豆知識



## せき 堰のおはなし

田んぼや畑でお米や野菜をつくるには、たくさんの水が必要となります。でも、欲しい時に必要な水がいつでもあるわけではありません。

そのために、昔から水を田んぼや畑に引く工夫がたくさん考えられてきました。雨水をためたり、山のわき水を引いてきたり、井戸を掘ったりしましたが、それでも欲しい時に必要な水を引いてくることはできませんでした。



そこで考えられたのが、川の中に土や石を置いて水の流れをせき止めて、川から水を引いてくる方法です。

このように土や石を置いて作ったものを堰と言います。（この堰のことを頭首工ともいいます。）

昔は、土や石だけでなく草や木も利用して造って

ましたが、今はコンクリートなどの丈夫な材料で堰は造られています。

堰を造ることで、欲しい時に必要な水が田んぼや畑に引けるようになりました。



草や木で造った堰



コンクリートで造った堰